

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0194700472), 法人名 (有限会社 ひまわり), 事業所名 (グループホームこのは 2F), 所在地 (河東郡音更町新通20丁目1-1), 自己評価作成日 (平成27年11月30日), 評価結果市町村受理日 (平成28年4月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月担当者がご家族あてに手紙を写真付きで送っている
毎月、入居料の支払い時にご家族と交流ができる
毎日、利用者と一緒に買い物に行っている
毎週メニュー会議を行い、利用者の食べたいものをメニューに反映している
日々の生活の中で活躍できる場面がある(炊事・掃除・畑仕事など)
個室にトイレ・洗面台があり、家族が宿泊できる部屋がある
本人の希望に沿った外出支援をしている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2014 022 kihon=true&JigvosvoCd=0194700472-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年3月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、玄関と事務所に掲示し、職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、ゴミ拾いや廃品回収、草刈り、親睦会など可能な範囲で参加、交流している。また、近所の方から野菜類のおすそ分けを頂いたり、買い物時に知人と会う等、顔なじみの関係を継続できるよう心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な相談員の訪問や民生委員・議会議員の見学などを受け入れ、事業所の様子を理解して頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催し、施設の現状や行事報告を行い、意見・助言を取り入れている。職員間で会議録を閲覧し、サービス向上に向け、情報を共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な相談員の受け入れを行い、取り組みの実情を伝えている。町担当者とはメールにていつでも連絡がとれる体制が整えられている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回、身体拘束を含む虐待防止についての勉強会を行っている。安全を考慮したうえで入居者が自由を満喫できるよう、職員同士で具体的な行為を話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、身体拘束を含む虐待防止についての勉強会を行っている。職員はもちろん、面会時の家族等からの虐待も見過ごすことがないように配慮している。怪我や痣の状況はその都度、確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を認識している職員もいるが、全体として学ぶ機会が少なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正による料金の改定等、書面にて説明し、理解いただいている。後日契約に関する問い合わせがある時は、納得して頂ける説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談員の受け入れにより、入居者は定期的に外部の方に意見を伝えられる。 運営推進会議に参加して頂いている。 急を要することは申し送りで告知し、そのほかは会議で告知している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談で提案できる機会がある。 日々の職務の中での意見や提案を適時、上長へ行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や環境についても配慮し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、希望する研修、必要だと思われる研修に参加できるよう機会を確保している。 質の高いサービスを行っている職員から意見を聞き、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加している。 キャラバンメイト研修会に赴き、良い点を自己の物とし、サービスの向上をさせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、ご家族から頂いた情報を基に、初期段階は積極的に関わり、また日々のかかわりから接し方や対応方法を考え、少しずつ馴染みの関係を築いている。 常に自然体であることを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に不安や疑問を聞くようにし、意見や質問にはきちんと答え、不安を解消できるように努め、来館時の相談にも対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて相談に乗るように努めている。 自宅での生活の延長線上になれるよう、在宅時に利用していたサービス等を参考に入居後の生活にも配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、必要なことは手伝わせて頂いている。 また、人生の先輩として相談させて頂いたり意見を頂き、支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や来館時に様子を伝え、可能な範囲で行事への参加もして頂き、ご本人と過ごす時間をもっと頂いている。 何かあれば家族と相談する等、共に支えていく関係を築き支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまで関わっていた近所の方の自宅へ訪問したり、知人の来館を受け入れ、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。 買い物外出や行きつけの美容室の利用支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話がかみ合わない様子がある時は、スタッフが間に入り、関係が円滑になり孤独にならないように対応している。 関係を見極め、席替えを行ったり、無理に関係を絶たないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点で、契約終了のケースがない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時にご家族からこれまでの暮らし・意向を聞き取り、職員間で共有している。直接聞き取る場合もあるが、困難な時には表情や反応など普段の関わりからも思いをくみ取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時やご家族から、これまでの生活歴の聞き取りを行い、把握に努めている。日々の会話の中でも聞けることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況確認し、ケース記録に記入し、職員間では申し送りで共有している。毎月のモニタリングにより把握に努めている。一日の生活を記録している(24時間シート)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントを行い、会議を通しケアプランを作成している。会議で意見を出し合い、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、日々の変化を個々に記載し、ケース記録や申し送りノートで共有し、ケアプラン立案に生かし、会議時などで話し合いを持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室、来館家族の送り、訪問マッサージの利用等、柔軟な支援を心がけている。入浴等は毎日行い、希望があれば週何回でも入浴して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事など、可能な範囲で参加している。訪問理容サービスの利用も行っている。希望時にはボランティアの受け入れも行っている。地域の方に協力して頂き、避難訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師が月に一度往診。救急搬送時の病院の希望を家族に確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療関係者へ必要と思われる情報等、回診ノートへ記入し、看護師へ申し送りを行っている。 看護師を配置し、24時間連絡が取れる体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は可能な範囲でお見舞いを行い、ご家族・医療関係者と連携を取りながら、早期退院及び、退院後の生活の支援ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、書面にて家族の希望を確認しているが、本人との話し合いについては未実施。 重度化に伴いホームとして家族にも意向を聞いているが、まだ進んでない事が多くある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けた職員はいるが、全体では行っていない。事務所に緊急時の連絡方法が記載された物を用意している。また、一斉通報システムの導入も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一斉通報システムの導入により連絡網のタイムラグが無くなり、速やかに避難誘導できるようにした。消防署に指導を仰ぎ、災害に備え水の確保をしている。避難訓練は行ったが、今のままだと不安がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の声掛けは自尊心に配慮し、プライベート空間である居室入室時は、プライバシーを損ねないよう配慮している。言葉使いに注意し、本人の意思を尊重している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情を読み、思いを表しやすいよう、時間をかけて話を聞けるよう配慮している。 簡単な質問や選択ができるようにし、支援している。「選んで頂く」機会を増やし、自己決定できる声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制の都合などで、希望に添えていない事もあるが、買い物や散歩、畑仕事など、ご本人の意向を確認しながら支援している。 その都度の訴え、若しくは生活スタイルを考慮し24hシートにも支援内容を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人に任せ必要時に介助、季節に合った服装の提案などを行っている。 訪問理容サービスを利用している方と行きつけの美容室へ送迎の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週のメニュー会議により、聞き取りを行い、希望に添えるように努めている。意欲的な方や体力や能力に応じて、準備や片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量を個別に記録し、健康管理上の指数として活用し、必要がある方には経口栄養剤などを用い支援の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は個々に合わせた介助や声かけにより行っているが、毎食は出来ていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録を行い、失禁がある時間帯を把握し、排尿の感覚を考え失敗なくトイレでの排泄をして頂くように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行う事や、朝食前の牛乳、おやつにヨーグルトの提供も取り入れている。排泄表から個々の排便間隔も把握し、必要がある方に下剤の使用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日入浴実施。本人の体調やタイミングに合わせて調整し対応している。温泉施設への日帰り入浴も実施し、非日常も楽しんで頂けるように工夫している。希望がある方には同性介助も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず、個々の希望に沿って就寝して頂いている。眠れない時は話を聞いたり、ナイトミールで体を温めて頂き、安眠を促せるように対応している。1週間に1度、又は適時リネンを洗濯し、清潔に保つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別ファイルにし管理。職員間での情報の共有を行い、必要時に確認し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴や日々の状況、聞き取り等から能力に応じた役割、得意分野や趣味を支援している。例として掃除や調理、畑仕事、編み物、縫物、ゴルフ、日帰り入浴など。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者からの希望に関して、スタッフ人員配置や天候など、状況から可能な限りでの支援を行っている。また、スタッフから買い物やドライブ、散歩、その他さまざまな行事への参加等、外出の機会を提案し、気分転換してもらえる様に活動している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設管理としているが、希望があった場合にはご家族と相談、了承を得たうえで所持・使用をして頂いている。買い物をする場合は、必ずスタッフ付き添いで行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と相談のうえで応じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃・整理整頓を行って、気持ち良く過ごせるよう心掛けている。夜間など、共用部の調光を行い、明度を下げる等場合によって工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを2か所配置、各所にソファを設置し、入居者の方々が気の向いた場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や本人の好みの物、安心できる物を持ち込んで頂き、少しでも自宅のように過ごして頂けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全域に手すりを設置し、残存機能を生かす自立歩行を促している。また、個々の身体状況に応じてトイレなどの居室に手すりを追加し、居室内の物干し竿の高さを調整している。カーテンの開け閉め等、積極的に行って頂く。		